

シグマ研究委員会
昭和 56 年度 第 4 回運営委員会議事録

日 時 昭和 56 年 8 月 28 日 (金) 13 : 30 ~ 17 : 30
場 所 原研本部第 5 会議室
出席者 原田 (委員長, 原研), 飯島 (NATG), 大竹 (動燃),
関 (MAPI), 塚田 (日大), 中嶋 (法大), 久武 (東工大),
松延 (住友原工), 更田, 田中, 五十嵐, 菊池 (原研)
オブザーバ : 梶山 (東北大), 松本, 浅見 (原研)

配布資料

1. 昭和 56 年度第 3 回運営委員会議事録 (案)
2. Announcement of IAEA Consultants' Meeting on Uranium and Plutonium Isotope Resonance Parameters
3. International Conference on Nuclear Data for Science and Technology, Antwerp 6 - 10 Sept. 1982
4. Thermal Reactor Benchmark Calculations, Techniques, Results, and Applications
5. Agenda for the forthcoming CRP Meeting, 12 - 13 Oct. 1981
6. Specialists' Meeting on Fast Neutron Scattering on Actinide Nuclei
7. Japanese List for INDC "L" and "U" Distributions
8. 「JENDL - 3 計画」に関する答申
9. 「第 20 回原子力総合シンポジウム」第 1 回運営委員会議事録
10. 1981 年核データ研究会 (案) (1981. 7. 17 改訂案)

議 事

1. 議事録確認

資料(1)により確認を行い了承された。

2. 2年報作成の報告

松本氏より、2年報執筆の資料を各執筆担当者へ送った、9月22日
切で、12月号に掲載予定であるとの報告があった。

3. 国際会議関係

次の各件につき、五十嵐氏より資料を用いて説明があった。

(1) IAEA Consultants Meeting on Uranium and Plutonium Isotope Resonance Parameters (資料(2))

日本からは 2 委の WG でまとめた論文 2 件を送った。

(2) International Conference on Nuclear Data for Science and Technology (Antwerp, 1982)

資料(3)により概略の説明があった。

(3) Seminar / Workshop on Thermal Reactor Benchmark Calculations, Techniques, Results, and Applications (資料(4))

今年開催の予定であったが来年5月に延期になった。

(4) Coordinated Research Project Meeting on the Intercomparison of Evaluations of Actinide Neutron Nuclear Data (資料(5))。

(5) Specialists' Meeting on Fast Neutron Scattering on Actinide Nuclei (資料(6))。

日本からは平川氏(東北大)が Th のデータを contribute した。

(6) INDC 第12回会合

10月初旬に開催され、原田氏が出席する。意見等があったら事務局
まで連絡して欲しい。

4. Pearlstein 氏の来所

五十嵐氏より、8月17日にBNLのS. Pearlstein氏が来所し、関係者との懇談や講演会を行ったことが報告された。この中で、米国の研究者とデータやコードを交換するときにはBNLへ送って欲しいとの要請があったことが紹介された。これに関連して松本氏より、崩壊熱関係のデータを最近、England氏と交換したことが報告された。

5. 被曝線量評価のためのデータ・ファイル

原田氏より次のような説明があった。原子力委員会の専門委員会で環境放射能評価の長期計画を改訂するに当たって、被曝線量評価のためのデータ・ファイルの作成計画が採り挙げられ、その実施は原研核データセンターが行うと記される予定である。

これに対して、2委は安全研究の面で乗り遅れた感があったがこのようなことはタイムリィな対応が必要であるとのコメントがあった。

6. 学会企画委報告

梶山氏より、原子力総合シンポジウムについての学会の企画委及び運営委での議論(資料(9))について報告があった。主調テーマは13件、総合講演は15件の提案があったが、企画委で議論の結果、主調テーマについては「原子炉構成要素の健全性」を出すことにした。

これに関連して、一般テーマについて議論が行われ、燃料サイクル核データ、核燃料施設に関する核データ、構造材のドシメトリー等の案が出たが、核データはあらゆる面に関係するので企画委の方向を見て、それに合ったものを出すことにした。

7. 原子力データ・センターの設立について

更田氏より、原子力データ・センターの設立の経緯および業務内容について説明があった。原子力データ・センターは科技庁から認可を受け8月

1日より発足した財団法人で、原子力関係のコンピューター・コードの整備やサービスが主な仕事でデータとは無関係である。仮事務所は東海村の金沢ビル内にある。NEAデータ・バンクからのコードの入手はこの原子力データ・センターを通じて行うことになる。

これに関連して、将来データの入手も有料になる心配もある等の意見が出た。

8. 事務局報告

- (1) Progress Report は原稿がまとまり印刷中である。
- (2) IAEA の Actinides 関係の評価済みデータ・ライブラリーを磁気テープで入手した。
- (3) 57年度概算要求の局査定：原子力局の査定で JENDL-3 作成費（1,100万円）が新たに認められた。
- (4) 医学用核及び原子分子データに関するアンケート調査：調査項目が決まり、関連学会の257名に対し、アンケート調査用紙を発送した。
- (5) シグマ委の名簿の英文版を現在作成中である。

9. 81年研究会プログラム検討委報告

関氏から、資料（10）によりプログラム検討委で作成した案について説明があつた。また、浅見氏より補足の説明があつた。今後、講演時間等の調整が若干必要なものの、大筋については了承された。

10. JENDL-3 作成体制の検討

この議題に関係して、五十嵐氏より、ヨーロッパの共同中性子データ評価計画に日本が参加する件についてのOECDの代表部の意見が紹介された。これに対して、事実誤認の点が多いので具体的な項目毎に事情説明の文書を作り送ったらどうか等の意見が出た。原田氏から、最終的には行政の判断に従わざるをえないが、これに対する意見があつたら聞かせて欲し

いとの発議があり意見の交換を行った。その主なものは次のようであった。

- 原子力局の調査国協課を通じて、OECD 代表部との意見の食い違いを正してゆくことが必要である。
- ヨーロッパ統一ファイルへの協同作業の問題をこの時点で再検討してみたらどうか。
- 先に決めた参加の目的は何であったか、一協同してやればマンパワーの点でメリットがあると考えた。日本は exp. data が少ないので協同してやれば exp. data を提供してもらえることが考えられた。ヨーロッパのファイルとB-Vとで交換するようとき参加していないと不利になる。(そのような考えは、なかったとする意見もあった。)
- OECD 代表部へもこちらから出向いて説明した方がよい。等々。

これらの議論の過程で、Phase II については、情報が不十分であったこともあって未だ結論を出していないことが確認された。また、これには国際協力の線を守ってゆく必要のあること、JENDL-3 についてはこれまでの線でゆくことで合意がえられた。なお、JENDL-3 の進め方については次回以降で検討することにした。

11. I NDC 及び NEANDC の distribution list の 改訂

五十嵐氏より、昨年作成したリスト(資料(7))の説明とともに、1週間位の間で改訂案を出して欲しいとの要請があった。出された改訂点として 大竹氏→井上氏、田中氏、塚田氏の所属変更があった。

12. NEANDC action list への対応の検討

五十嵐氏より、対応する必要のある次の2件

- (1) 研究者の年齢の分布の調査
- (2) 核データが経済性に及ぼす影響について

の説明があり、(2)については次回のNEANDC会合で議論することになっているので専門家がいたら知らせたいとの要請があった。

13. 監査小委員の補充

原田氏より、監査小委員に原研側委員が不在なので補充する必要があるとの説明があり、田中氏が推せんされ了承された。

また、名称は監査小委員会ではなく、調整小委員会の方が良くないかとの意見があった。

14. 専門部会長の交代

核データ専門部会長に菊池氏、炉定数専門部会長に関氏が推せんされたが、次回に決めることにした。

15. Regional Center の構想

原田氏より、昭和 61 年度に国際 Regional Center を設立する計画になっているが、どのようにアプローチしたらよいか議論して欲しいとの発議があった。また、更田氏より補足説明として、NEA データ・バンクの分担金とのからみで役人が regional center を考えている向きもある。日本としては後進国援助も必要であるとの説明があった。

これに対して議論が行われ、次のような意見、質問等があった。

- アジア地区の小規模な研究会を開いて regional center 設立へもつてゆくやり方もある。
- 設立したとき加盟国はどうなるのか、サービスが限られることはないか。
- one step で行ける問題ではないので、除々に理解を深めてゆく必要がある。
- Antwerp 会議のような機会をとらえて、話し合う場をつくることも考えられる。
- 中国とどうやってゆくか、等々。

16. その他

- (1) 中川氏がNEAデータ・バンクに出向したのに伴い、CINDAメンバーを中川氏から菊池氏へ交代する。
- (2) 飯島氏より原子力学会賞に、中嶋氏らの崩壊熱の研究を推せんしたいとの提案があり、了承された。

次回は9月28日(月)13:30より、東海研で行う予定。